2021年３月期
第２四半期決算説明資料

2020年11月19日

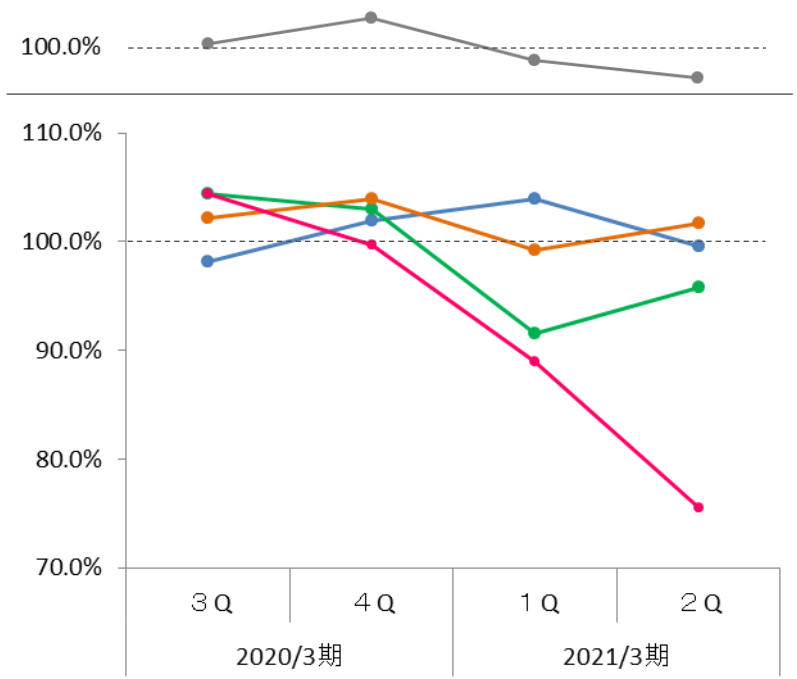
ヒューマンホールディングス株式会社

（証券コード：2415）

1.新型コロナウイルス感染症の影響

第１Q：ほとんどのセグメントが影響を受ける
第２Q：「回復傾向」と「さらに厳しい」セグメントへ分かれる

売上高　四半期ごとの前期比推移



連結	+0.5%	+2.4%	-0.7%	-2.0%
人材	-1.8%	+1.9%	+3.9%	-0.4%
教育	+4.4%	+3.0%	-8.4%	-4.1%
介護	+2.2%	+4.0%	-0.8%	+1.7%
その他	+4.4%	-0.3%	-11.0%	-24.5%

- **グループ連結**
  第２Qでさらに前期を下回る

- **人材**
  第２Qで前期を下回る
  派遣スタッフの稼働日数減少や契約数減少などの影響

- **教育・介護**
  第２Qで回復傾向
  教育は、通信講座の伸長、ロボット教室が回復するものの前期水準には戻らず

  介護は、稼働率が回復傾向で前期水準に戻る

- **その他**
  第２Qでさらに前期を下回る
  主にネイルサロン運営事業の休業の影響

2. 連結決算概要（2021/3期第２Q）～エグゼクティブサマリー～

➢ 連結売上高	４２，００５百万円	前年同期比	▲1.4%
➢ 連結営業利益	１，２３７百万円	前年同期比	＋28.5%
➢ 親会社株主に帰属する四半期純利益	７５１百万円	前年同期比	＋74.6%

- 連結売上高 -

人材関連事業において、**派遣スタッフの稼働日数**が前期と比べ**増加**したことや、**行政助成金関連の業務受託**などにより増収となったものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響により**教育事業**において**留学生の入国遅延**、**介護事業**において**デイサービスの稼働率が低下**したことなどにより**減収**

- 連結営業利益・親会社株主に帰属する四半期純利益 -

教育事業や介護事業は減収などにより減益となったものの、人材関連事業においては、増収に加え**コスト削減**の取り組みにより、前期に比べて**400百万円**程度**求人費や旅費交通費などが減少**したこと、および新型コロナウイルス感染症の影響に伴う**雇用調整助成金など**を営業外収益に**171百万**計上したことなどから**増益**

3.ウィズコロナの経営戦略　～外部環境～

外部環境

新型コロナウイルス感染症収束後も経済情勢悪化、生活様式の変化により、当社グループそれぞれの事業環境において大きな変化が予想され、各業界で淘汰・再編が加速するものと考えられます。

リスク	アセット	成長機会
国内労働人口減	教育保育事業	アジアの労働人口増
国内消費人口減	人材事業	アジアの消費人口増
国内少子化	介護事業	中国の高齢化
競合の競争激化	IT事業	外国人労働者受け入れ
異業種からの参入	その他事業	働き方改革
パンデミック		教育制度改革
		万博/カジノ/インバウンド
		越境EC
		ウィズコロナ

3.ウィズコロナの経営戦略　～全体方針～

-ニューノーマルに対応した-
-個々のサービスモデルのリストラクチャリング-

ITツール開発・活用によりサービス提供の**「場所」の概念を無くす。**
サービスのコンテンツ化によりサービス提供の**「時間」の概念を無くす。**
これらにより**サービス自体の概念**を根本から変える。

ここをビジネスチャンスと捉え、中長期的なビジネス展開のモデルを再構築し
収益構造を変革して、**高成長・高収益**を図る。

3.ウィズコロナの経営戦略　～　戦略　～

人材	全体	DX（デジタルトランスフォーメーション）推進 ビジネスモデルのDX化 非対面営業の仕組み化（営業活動、人材募集、マネジメントなど） 営業活動や業務プロセスのデジタル化
	派遣	リモートワーク派遣と教育の強みを活かした育成型派遣の強化
	紹介	オンラインを活用した地方企業の開拓
	GIT	オンラインを活用したDX推進課題を持つ大手企業への営業活動
	RPA	オンライン・クラウド製品などのサービス拡充により顧客企業拡大
教育	全体	DX （デジタルトランスフォーメーション）推進 全世代に向けた教育コンテンツホルダーとしての学習機会を提供 ・教育コンテンツのデジタル化 ・教室のデジタル化、教育サービス提供や営業手法のデジタル化 （映像ライブ配信、集合学習/個別学習、教育アプリ他）
	社会人	IT・コンピュータ系講座（IT・プログラミング・WEB他）の強化
	全日制	IT・エンタメ系講座（IT・ｅスポーツ・ゲーム/マンガ等）の強化
	国際人	日本語教育事業強化（教育コンテンツのEC海外配信、法人向け販売強化）
	児童	ロボット教室の海外展開の推進（FC）
	保育	認可保育所のシェア拡大、保育ノウハウパッケージ化と海外展開

3.ウィズコロナの経営戦略　～　戦略　～

介護	小規模GH	介護事業の主力事業として拡大戦略を継続 医療連携強化
	デイサービス	自宅での生活支援機能を強化 ・食事や日用品などの配送 ・機能訓練や認知症予防プログラムのオンライン配信
	その他	海外人材の活用、技能実習生の研修育成 介護技能研修・介護スタッフ評価システムのデジタル化 （スタッフ定着率とサービス品質向上など）
その他	スポーツ	スポーツ映像製作事業の強化とスポンサー向け物販事業の強化
	美容	店舗運営の効率化と物販ビジネス（EC）の強化
	IT	非対面ビジネスを志向する業界に営業注力
	和食	テイクアウト・宅配の強化、物販ビジネス（EC）の強化

4.連結業績予想（2021/3期第２Q）　～通期予想について～

- 2020年8月7日公表の業績予想は据え置き -

➢ 連結売上高	８５，８１２百万円	前年同期比▲０.2%
➢ 連結営業利益	１，４１５百万円	前年同期比▲29.3%
➢ 親会社株主に帰属する当期純利益	２８８百万円	前年同期比▲66.0%

算定の前提条件

本事業年度中は、新型コロナウイルス感染症の第３波の到来などにより原則第１～２Qに受けたコロナの影響が継続

連結業績予想（通期）について

人材関連事業においては、期初の行政助成金関連の業務受託などによる増収効果が薄れることや企業の求人需要減少を想定する一方で、**コスト削減**効果により第１Qに発表した予想に対し**業績は好調に推移**することを想定。**教育事業**においては**留学生の入国遅延**。**介護事業**においては**デイサービスの稼働率伸び悩み**と新規開設に伴う費用の発生などを想定。また、全事業において新型コロナウイルス感染症再拡大の懸念などから先行き不透明な状況を鑑みて業績予想を算出しております。

グループ全体では、本社オフィスをはじめとする各拠点の規模見直しや経営資源の最適化に取り組む前提のもと、減損や**各種コストが発生**することを想定しております。以上より、業績予想は据え置きとしております。

本資料に記載されている、業績予想や将来予測等は、リスクや不確定要因を含みます。
実際の業績や結果は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

本資料に掲載されている情報は、情報の提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。
当該情報に基づいて被ったいかなる損害に関しても、その理由の如何に関わらず一切の責任を負うものではございません。

【お問合せ先】
ヒューマンホールディングス株式会社　経営企画室
TEL　：03-6846-8002
E-mail：sougoukikaku@athuman.com